



2001年 12月15日発行(隔月刊)



う 羽 化 か

2001年12月
第29号

横	浜	漢	点	字	羽	化	の	会
〒231-0851	横浜市	中区	山元町2-105			Tel	045-641-1290	
発行責任者				代 表		岡 田 健 嗣		
編集責任者						宇田川 幸 子		



目 次

EIBRK による漢点字変換のための入力マニュアル (2)	・・・ i
連載「点字から識字までの距離」(26) (山内 薫)	・・・ 1
東洋医学について (2) (小池上 惇)	・・・ 3
点字の読みづらさと漢点字の触読について (13) (岡田 健嗣)	・・・ 7
白杖を持っているのに薄情な日本人 (馬場 威力)	・・・ 12
漢文のページ	・・・ 15
ご報告とご案内	・・・ 14
視覚障害者の識字についての要望	・・・ 19
イラスト版「漢点字ってどんな字？」(28)	・・・ 21

点字から識字までの距離 (二六)

山内 薫 (墨田区立緑図書館)



『漢字と日本人』(高島俊男著 文春新書) という本が刊行された。漢字や漢点字をかंगがえるうえで興味つきないので今回はこの本の内容を紹介したい。

「日本語は、世界でおそらくただ一つの、きわめて特殊な言語である」という。それはなぜか。「音声が無力であるためにことばが文字のうらづけをまたなければ意味を持ち得ない」ためだという。

かつて日本には文字がなく、千数百年前に今の中国から漢字が入ってきたの



で、それをもちいはじめた。漢族の言語である「漢語」を書きあらわす文字がすなわち「漢字」であり、文字のなかった日本では言語を書きあらわすためにこの漢語を借用した。

しかし、漢字を用いるようになったことは日

本語にとつて不幸なことであった。

第一に日本語の発達がとまつてしまった。当時の日本語は、まだ概括がいかつてき的な語や抽象的なものをさす語を持つにいたつていなかったために、例えば「季節」(春、夏、秋、冬はあった)、「義、恩、礼、徳」などの抽象的な概念については直接漢語を用いざるをえなかつた。したがつて、日本語はみずからのなかにあたらしいことばを生み出してゆく能力をうしなつた。日本人は自分たちの生活や感覚のなから生まれたものではない概念をそのまま受け入れざるを得なかつた。

第二に、漢字は漢語を書きあらわすためにできた文字であり、漢語と日本語とがあまりにもかへだたつていたために日本語を漢字で書くということには、非常な困難と混乱がともない、それはこんにちもまだつづいていゝる。

漢語は原則として一つ一つの文字が単語で、それらはすべて一音節の言語である。日本語の音節はおよそ百くらいといわれ、非常に少ないが、それにくらべて漢語の音節はおよそ千五百くらい、英語になると三千といわれている。したがつて日本語には一音節のことばが少なく、

およそ二百語くらいしかない。

一方漢語では外来語などの例外を除いてすべて一語一音節一字で、それぞれの語に固有の音と意味がある。また漢語は二音節で安定するという性質があるので、同じ意味のことばを二つ並べたことばがおおい。

明治以降の翻訳語の大部分が二字でできているというのは、何ら必然性がないにもかかわらずこうした漢語を真似したためであるという。

さかのぼれば奈良時代の国名がすべて二字であるのも同様で和泉（和のつけたし）、播磨（りの省略）など無理矢理二字にされている。

江戸時代以前の和製漢語は耳で聞けば分かるが文字を見ても意味が分からない。（例えば「家来」「無下」「大工」ところが明治の造語は逆に耳で聞いては意味がわからないが、文字を見れば見当がつく。

つまり明治に大量に作られた翻訳語、和製漢語は音を軽視して、文字を重視した。その結果音韻組織がいたって簡単な日本語のなかに同音異義語が大量に作られたのである。にもかかわらず日常的に私たちがさほど不便を感じないのは、その語が出てくる文脈や環境のなかで瞬時

に文字を思いうかべて判断しているからで、「日本人にとつてことばの実体は文字なのである。」

明治以降、おくれた言語である日本語を全面的に捨て去り、英語を日本の国語にしようという動きや音標文字、すなわちアルファベットやかなを採用して漢字を廃止しようという動きがあらわれる。そして昭和二十年の敗戦は音標文字派にとつて願ってもないチャンスとなった。

志賀直哉がフランス語を国語にしてはどうかと提唱したのはこの時期である。昭和二十一年には当用漢字千八百五十字と現代かなづかいが告示交付されたが、これは漢字全廃への一里塚であった。

しかし、中途半端なまま五十年がすぎていつてしまったのである。戦後の国語改革について著者は「最も重大な効果は、それ以降の日本人と、過去の日本人—その生活や文化や遺産—とのあいだの通路を切断したところにあった。」そして「力がおち、幼稚になったことはまぢがない」と述べている。

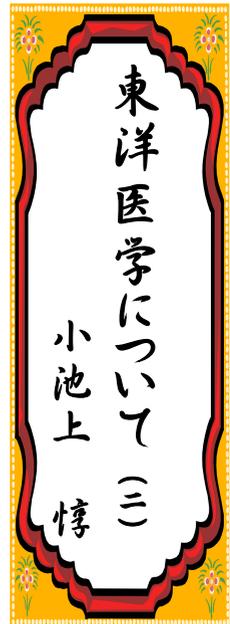


現代の日本語は「和語」（やまとことば）
「字音語」（漢語と和製漢語）「外来語」「混
種語」（プロ野球など）の四つに分かれるが、
和語はなるべくかたじけなく書き、漢字で書かなければ
意味の通じない言葉一すなわち字音語一は漢
字で書くというのが著者のスタンスである。

「とる」という和語に「取る」「採る」「撮
る」「捕る」のどれをつかうか、「はかる」に
は「計る」「図る」「測る」をどう書きわけ
るか等というのはナンセンスであると。

しかし字を制限するのは事実上語を制限する
ことになり日本語を貧しいものにするから、漢
字を制限してはならないとも主張する。

「漢字はもともと日本語の体質にあわな
い、この重荷を切除すれば日本語は幼児化す
る。へたをすれば死ぬ。このからだに癒着した
重荷は、日本語に害をなすこと多かったが、し
かし日本語はこれなしにやってゆけないことも
たしかである。日本語は、奇型のまま生きてゆ
くよりほか生存の方法はない」というのが著者
の結論である。



二 陰陽五行論

鍼灸医学の理論を体系化するために陰陽五行論が
用いられています。

陰陽五行論とまとめて言われますが、元々陰陽論
と五行論は別々の理論でした。これがある時期に合体
し、陰陽五行論になりました。

(一) 陰陽論

ア 陰陽論の発生

陰陽は、日が当たるか当たらないかということから
発生してきた考え方です。

生活の中心が農業であった中国民族にとって日当たり
の良い土地と水が多い土地に対して関心が集中するの

は当然のことです。陰と陽との代わりに雌と雄が用いられることもあります。それは、牧畜生活の経験から二つの対立したものが、合致してそこから新しい生命を生み出すことを見て発想したものであろうと思われます。同じように柔と剛を陰と陽の代わりに用いることもあります。後には、雌も雄も、柔も剛も全て陰陽の概念に統一されることになるのです。

すなわち、動的・積極的・男性的な性質は陽、静的・消極的・女性的な性質は陰と呼ばれるようになりました。

中国古代の思想家たちは、陰と陽の対立や消長などの相互関係を全ての現象を解釈する上での基本的観点としたのです。

イ 陰陽関係法則

① 陰陽互根

互いに相手の存在によつて存在すること。

「陰があるから陽があり、陽があるから陰がある」ということ

② 陰陽転化（循環律）

陰が極端になると陽となり、陽が極端になると陰となるということ。

季節の移り変わりで言うと、陽の春がだんだん進ん



で陽の極地である夏となり、夏を過ぎると陰の秋に移り、さらに季節が進むと陰の極地である冬となると言うことです。

病気に当てはめると、極端に熱が上がると急に悪感を感じるなどがこの法則の例になると思います。

③ 陰陽消長（拮抗律）

陰が不足すれば陽が優勢となり、陽が不足すれば陰が優勢となるという法則。

肘を曲げようとすると、伸ばすための筋肉の緊張が弱くなり、スムーズに運動が出来るというのがこの法則の例としてあげられます。

④ 陰陽可分（交錯立）

陰の中に陽があり、陽の中に陰があるという法則。女性には陰で男性は陽と言われていますが、女性の中にも男性的な人がおり、男性の中にも女性的な人がいるというのがこの法則の例としてあげられると思います。

ウ 陰陽論の医学的応用

① 体の部位

陰：体幹の前側、四肢の前側・内側

陽：体幹の後側、四肢の後側・外側

② 症状

陰：慢性、冷え

陽：急性、熱

③ 複勝関係

相生と相剋関係を組み合わせ五行が安定した状態を維持すること。
例えば木が土に勝とうとするときには土の子で

例えば、五色と五臓との関係です。顔色が青ければ肝の病気、赤ければ心臓の病気、黄色ければ脾臓の病気、白ければ肺の病気、黒ければ腎の病気ということになります。

五行	五臟	五色	五声	五味	五季
木	肝	青	呼	酸	春
火	心	赤	言	苦	夏
土	脾	黄	歌	甘	土用
金	肺	白	哭	辛	秋
水	腎	黒	呻	鹹	冬
五行	五腑	五支	五香	五竅	五惡
木	胆	爪	ソウ	目	風
火	小腸	毛	焦	舌	熱
土	胃	乳	香	口	湿
金	大腸	息	腥	耳	燥
水	膀胱	髪	腐	鼻	寒

② 治療

《相生関係を利用したもの》
病に冒されている臓の母にあたる臓の機能を補い、子の機能を抑える。
例えば、肝臓の病気の場合、腎臓の機能を補い、心臓の機能を抑える。

ある金が木を抑制し、均衡を保とうとする状態です。

ウ 五行の色体表（右表）

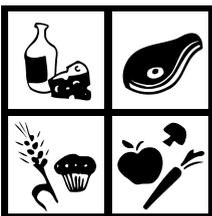
人間や自然界の事象を五行に当てはめたものです。参考として幾つかのものをあげてみます。

エ 五行論の医学的応用

① 診断への応用
五色、五支、五声、五音、五香、五味などが診断に用いられています。

《相剋関係を利用したもの》
病に冒されている臓と相剋関係にある臓の機能を抑える。
例えば、肝臓の病気の場合、肝臓を抑える肺の機能を抑制する。

だいたい分かりにくい内容になってしまいました。次回は臓腑と経絡について書いてみたいと思います。



点字の読みづらさと

漢点字の触読について (十三)

横浜漢点字羽化の会 代表

岡田 健嗣

六日本語点字の成立とそれが残したものの(承前)

日本点字委員会

現在私たちが使っている点字は、石川倉次先生がお作りになったものを、明治二十三年に時の政府が「日本語点字」として承認して制定された仮名体系の点字を言います。

しかし現在の点字は、当時作られたものそのものではありません。石川先生の点字から今日までの点字の表記法の変化を後づけるのは極めて困難ではありますが、私の知る変化の例を、一、二挙げることはできます。

この点字は仮名体系ですので、その表記法には大きく分けて二つの要点があります。

その一つ目は、墨字(一般の文字)で書かれている文を、一旦仮名文字だけの文に換えて、それを仮名の点字で表すのですが、その文を如何に表すかということです。仮名文字の表記

も、そのまま点字に写し換えることは困難であって、点字特有の表記を必要としたことです。二つ目は、この点字は仮名文字の体系ですので、仮名だけで書かれた文を表すのに、音の区切れ目に区切り符であるスペースを入れたことです。これを「分かち書き」と呼びます。

これらは、恐らく石川先生が、ローマ字の表記法を参考にしてお考えになったもので、「日本語点字」の初めから現在に至る基本的な原則です。この原則を越えないところで、細かな移動が絶えず起こっているのが、点字の使用者は、常にそれに注意を払っていなければならぬのです。

私が点字に初めて触れたのは昭和三十年代の初めでした。そのころの点字には、現在の表記法との間に、多くの相異点がありました。その相異点の例を、二つに分けて挙げて見ますと、

① 仮名表記：

オカーサン(旧)・オカアサ

ン(新) 〈お母さん〉、オー

サカ(旧)・オオサカ(新)

〈大阪〉、ハルヲ(旧)・ハル

オ(新) 〈春男(人名)〉

②分ち書き：ゴリ ムチュー（旧）・ゴ

リムチュー（新）〈五里

霧中〉、サクラナミキ（旧）

・サクラ ナミキ（新）〈桜

並木〉

ご覧のように①も②も、現在の方が全体としては墨字の表記に近付いているように見えます。

現在から見れば何故〈オカーサン、オーサカ〉だったのか、〈ゴリ ムチュー〉だったのかのように、古い表記には馴染めないものを感じますし、現在に至ってなお何故〈サクラ ナミキ〉なのか、新しい表記にも釈然としないものを残してもいます。

また、古い点字の表記法から現在の点字の表記にまで残っている、助詞の〈は、へ〉を〈わ、え〉の字で表すこと、また才行とウ行の長音である〈ウ〉を〈ー〉で表すこと、さらに句読符を無駄な符号と考える傾向など、墨字の表記法に近付けるということに逆行して見えるものもあります。

また一方、数学や科学など自然科学の表記には、極めて熟慮された跡が見られます。

私が盲学校に在学中の数式や化学式の表記

は、大変分かり難いものでした。

強度の弱視でも、フェルトペンで引いた線が見えれば、墨字を使う方がはるかに理解し易いもので、数学の授業だけは、ノートを、墨字で付けたりましたものでした。

従って全盲者は、点字の表記法を個人が独自に開発して私的に使うことも稀ではありませんでした。

それに引き替え現在の点字では、そのような試みを集約してか、大変分かり易いものになっているようです。

以上のように、国語の表記に対しては、身体に合わない衣服を無理に着せるようで、ぴたりと決まらない感を持たせまずし、理数系の表記に対しては、木目細かな配慮を見せているように感じられます。

このような点字の表記法の開発を一手に引き受けているのが『日本点字委員会（以下、日点委と言う）』です。

この日点委は、これまで点字の表記法の中に、漢字の表記を導入することに一切触れることがありませんでした。如何にも日本語の表記そのものに、漢字は存在しないかのように、仮

名文字だけで日本語の表記は全うできるとい
う姿勢を取り続けて来ました。

この日点委が初めて点字の漢字
に言及したのが、今年初冬に催さ
れた集会でのことでした。

そのお話を、本誌の読者のお一
人からお聞きして、レポートとし
てご執筆いただいたのが本誌二十
四号（二〇〇一年二月発行）に掲
載された『漢字教育と日本点字委
員会』という記事でした。

著者は匿名をご希望でしたので、日時と会場
が特定できて、その集会が公開された催しであ
って、多数の聴衆を前にして行われた発言であ
ることを確認した上で、掲載させていたいただい
たものです。

著者のお話では、かの集会の目的は、新たに
制定された点字の表記法の説明と、点訳社を対
象とした、点字表記の認定試験の実施要綱の紹
介にあったとのことでした。

今回はその記事に従いながら、日点委の、点
字に対する姿勢を検証して、私たち視覚障害者



が、漢字を手にすることができないこと、漢点
字を習得して漢字を使いこなすことを、この日
本の社会では特別なことと評する、真の理由に
迫りたいと考えます。

著者は、日点委の方三名が登壇されて、それ
ぞれ点字についての私見を述べられた後、点字
の新たな表記法の説明と点字の認定試験のお話
をされたと記されています。

最後に質疑が行われて、その質問に答える形
で、初めて漢字の点字についての言及がなされ
たと記されています。

お三方それぞれがお答えになられたご様子
で、著者は、その要点を短めにまとめて下さい
ました。

以下、お一人お一人の発言を引用して、日点
委の姿勢を、読み解いて見たいと思います。

〈発言者A： 日本点字委員会は国の国語審
議会のような公的団体ではなく、私的団体であ
る。日盲社協など諸団体から委託を受け、全国
規模で活動している。その目的は、六点仮名点
字に関する表記ルールの検討、調整、普及にあ
る。従って、仮名点字に関しては責任ある立場
にあるが、漢字を表現する点字、即ち六点漢字

と漢点字の優劣を比較判断し、教育界に勧告したり、決定する立場にない。良いものは自然に残るはずである。》

如何にも堂々と、日点委は、仮名点字の表記と普及には責任があるが、漢字の点字には責任はない、と述べられています。

ここに出て来る「日盲社協」とは、「日本盲人社会福祉施設協議会」の略で、盲学校、公立図書館を除く、全国の視覚障害者向けのサービスを行っている施設で構成している団体です。すなわち、点字図書館、点字出版所、視覚障害者厚生施設などがそれに含まれます。

この発言でまず最も疑問に思われるのが、日点委が、「私的団体」であつて、「公的団体」ではない、というところ です。

その私的団体が決めた文字の表記法が、全国の施設を通じて、点訳社の点字に反映していて、全国の視覚障害者は、否も応もなく、その点字を享受しなければなりません。

しかもその表記法は、数年に一度の改変が行われるため、その都度変更箇所をチェックしなければなりません。それを怠ると、点字の読み

書きが困難となります。

これは一人視覚障害者ばかりでなく、点訳ボランティアに、むしろ過重な負担がかかっているのが現状です。その変更点の主なところは、分がち書きの仕方です。どこにスペースを入れるかというところで、それが数年に一度の割で変わります。

先の例のように、かつての表記から現在の表記へ変更されるにしても、充分な説得力を持った根拠が示されることはありませんし、そのためか、また数年すると、元へ戻ったりすることを繰り返しています。

同様に私が点字を覚えてから、数字の小数点と、位取り点の点字符号が三度変わりました。日点委のお考えでは、それぞれに理由あつて行われたことに違いないのでしようが、試行期間があまりにも短いのは否めないとところで、然るべきところで然るべく時間をかけてテストした後、その理由とともに発表されるのが本当ではなからうかというのが、点字使用者の正直な気持ちではないでしょうか。



この日点委の活動は、私たち民間の視覚障害者と点訳ボランティアにだけ及ぶのではなく、むしろ盲学校や点字図書館に、強く影を落とされています。

昨年私たちが、文部省と盲学校校長会長をお訪ねして、漢点字へのご理解と、公的な研究をお願いしたところ、両者の口から、図らずも同じ、「日点委ではどう言っているか？」というご質問をいただきました。

すなわちこれは、点字の専門家のいない文部省と、点字の知識の稀薄な盲学校の晴眼の先生方にとって、この日点委こそが、日本語点字のメッカであると受け止められていることを示しています。

点字に関しては、全て日点委にお預けして、日点委の見解を、そのまま文部省（現、文部科学省）、盲学校の見解とする関係が成り立っていることを示しているように思われます。

このように見て来ますと、ここで言う「私的団体」という言葉が、極めて意味深長に思われ

て参ります。確かに、形の上では「私的」であっても、実際上は「公的」な性格を帯びているのではな

らうか、にも関わらず「私的」な性格を強調することこそが、日点委の性格の一つなのではなからうか、と私は思うのです。

もう一つこの発言から重要な問題が見えて来ます。日点委の活動は、六名の仮名点字の表記の研究とその普及にあつて、漢字の点字はその範疇はんしゅうにない、ということです。

これは大変な奇弁で、公の点字の表記を担っている組織が、日本語の表記そのものに面を向けていないことを指した言葉と受け止められても仕方のないものです。

私たち日本人がこうして読み書きしている文章は、香り高いものも、このように拙いものも、漢字仮名交じり文です。

この日本語の文章の構造は、我が国に文字がもたらされて、先人が苦闘の末編み出した、漢文訓読法に由来しています。

この日本語の文字表現に一瞥もくれることなく、点字の世界は仮名だけで充分と言っているのが、日点委の一つの姿勢なのです。（続く）



以下は、会員の馬場威力さまからのご寄稿です。

白杖を持っているのに

薄情な日本人



馬場 威力



アメリカは Virginia 州の、十数年来の知人にメール一本で依頼されて、一日の案内を引き受けたのが、初対面の Cathy & Joy 姉妹だった。妹の Joy の方は生来の全盲者。

折角だから、と言うよりは、最近の東京は不案内なものだから、地元のライトセンターを案内することにした。幸い、同所の姉崎指導課長とは、面識があったので、お願いした。

当日は、朝、東京駅の大丸百貨店でバトンタッチ、お昼にはまだ早い頃でもあったせいで、私などが見ると、混雑からはほど遠かったが、姉妹から見ると、多くの混雑の都心のデパート、と驚いていた。

なにしろ、生育地の Virginia 州の州都 Richmond では経験したことがなかった大規模百貨店だけに、人、人と感じたのだろう。

東京駅では、その驚きに加えて、私には見なれた階段ではあったが、あまりにも多い階段、階段。彼女にとっては、まさに怪談だった。

どこへ行くのにも車が当然のアメリカ社会。そこでは、階段となると、とても少なく感じる。

それは町の内外の小学校、中学校、高等学校のいずれを見ても分かる。敷地が豊富なお国柄か、ほとんど平屋建てだ。せいぜい二階程度。したがって、階段にはスロープを、バリアフリーを、と声高に叫ぶ、福祉途上国の日本の実情が奇異にも思えたものだった。



その車社会、と言えば、高速道路の渋滞の定義が、制限速度（八〇キロから一一〇キロ程度）で走れない時だ、とは日本通のアメリカ人の冗談だ。笑えない、きつい冗談だ。

横浜駅のルミネで昼食・・・初めての日本の Joy のために、箸を使わずに済む日本食、おすしをご馳走。

箸は勿論、フォークも、ナイフも、スプーンも要らない、手づかみの「にぎり」は食べやすく、また上手に口に運んでいた。

最近、健康食ブームのアメリカでは、おすしはかなりポピュラー、とかで大喜び。

生ものは、大西洋に面している州、漁業でも有名なところだけに、抵抗は全くなかった。

その間、来日に備えての日本勉強の内容を教えてもらった・・・まずは地理、北海道から九州と結構すらすらと口をついて出てきた。

その次は、簡単な日本語、「おはよう」「ありがとう」「すいません」・・・ただ、午後になっても相変わらずの「おはよう」で、それも大声での「ごあいさつ」。

声をかけられた日本人は面喰らい、その程度、ずいぶんと訂正、訂正したものだ。が、それはご愛嬌。

センターでは、姉崎課長の念入りなご案内、ご説明で二時間半も、根掘り、葉掘りの質問の連続。

例えば、雑誌の BGM 入りの録音とか、テープの大量生産とか、売店で見掛けた声の出る「はかり・体温計・おしよゆとソースの



瓶のセットもの」はどこで買えるのかなどとすぐ興味を示した・・・英語物はないよ、と言ったらがっかり。

最後に、百十メートルを息も切らずに完走して見学を無事終了。

とここまでは、やれやれ、とホッと一息。が、ラッシュ時間にも差し掛かった夕方の横浜駅の地下の混雑振り、それに倍するような東京駅の人の群れ。まず、そのような人波、人ごみに、その姉妹はびっくり。

ところが、白杖をつき、大柄なのに加えて、明らかに視覚障害者と分かるのにもかかわらず、ぶつかってくる老若男女には腰を抜かさなばかりに驚いた彼女たちだった。

それに加えて、「ごめんなさい」の一言もない。逆に、にらみ返されたりした始末・・・驚きを超えて、しばし呆然。立ち止まった。

この国の人はどうなってるの？
通行中に、歩行中に人にごつかる、ぶつける・・・すごく非常識なこと、失礼なことであり、嫌われる。その場合でも、最低、I am so sorry. が口について出てくるのが、当然のお

国柄だ。こんなことが日常茶飯事の日本、大都会の都心だ。

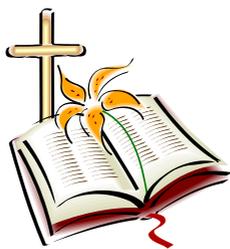
物理的に狭い国土が、また、全て物、物の時代の流れが、精神的に国民を狭量な、自分勝手なものにしてしまったのだろうか。

なお、何故メール一本でこのようなことを、それも初対面の姉妹のために引き受けたのか、と言うと、それは、アメリカ型の Volunteer 精神からだろうか。

少なくとも、Virginia 州では、Volunteer を支えるものは労務提供の一群と、資金提供の一群の二つであり、そこには、行政は全く介入しない。税金を使つての補助金などは皆無だ。

このような助け合いの精神は、キリスト教の影響もあるかもしれないけれど、歴史的に見ると、約四〇〇年前の移民時代に始まり、独立戦争で、また南北戦争で培われた、それだけに伝統があるアメリカ型の強きをくじき、弱きを助ける Volunteer そのもののように思える。

日本型のボランティアとは、一味も、二味も異なる重みがある。



（一）報告と二）案内

一 『東洋医学臨床論 鍼灸編』（医道の日

本社）の漢点字訳の完成が近付きました。

大変お待たせ致しましたが、同書の漢点字訳の完成に漕ぎ着けました。本書は、鍼灸術の教科書として、東洋医学を論じたものです。巻数、価格等は、次号をご覧下さい。

以下、序の一部を抄録します。

序

『東洋医学臨床論』は今回の法改正により新設され、診察の結果をもとに、治療の適不適を判断し、適切な鍼灸治療が行えるよう、その方法を学習する科目である。特に、臨床上遭遇しやすい症候・疾病に対して、東洋医学と現代医学を総合した鍼灸治療の実際を学習することに重点がおかれている。

本書は社団法人 東洋療法学校協会編の指導要領に沿って、作成したが、東洋医学と現代医学においては生理、病理、診察などに関する概念、用語に違いがあり、学習上の混乱を避けるため、「主要症候の鍼灸治療」では各症候ごとに「現代医学的な考え方」と「東洋医学的な考え方」に分けて記載した。



こうせつ
りゅうそうげん

千山鳥飛絶

万径人蹤滅

孤舟蓑笠翁

独釣寒江雪

《千山》 鳥飛ぶこと絶え／万径 人蹤滅す／
孤舟 蓑笠の翁／独り 寒江の雪に釣る》

〔江〕 揚子江のこと。またその支流をも「江」と呼ぶ。〔人蹤〕 人の足あと。人通り。〔滅〕 絶える。消える。「ほろぶ」ではない。〔寒〕 さまむとされた。

すべての山には鳥の飛ぶ姿も絶えて、すべての道には人の足あとも消えた。一そうの小舟にみのかさをつけた老人が、ひとりぼっちで寒々とした川で釣りをしている。

白んじやくろう

おうしかん

白日依山尽

黄河入海流

欲窮千里目

更上一层楼

《白日》 山に依りて尽き／黄河 海に入りて流る／千里の目を 窮めんと欲し／更に上る 一層の楼》

〔鶴鶴楼〕 山西省にあった。前に中条山があり、下に黄河が流れる。唐の詩人が多くここに遊んだ風光明媚の地。楼（建て物）は三階だて。〔白日〕 白は、明るく照りかがやくこと。「山に依りて尽き」とあるので、ここでは夕陽。〔依山尽〕 太陽が山なみのかなたに沈んでゆく。〔目〕 ながめ。眺望。〔層〕 日本「階」と同じ。

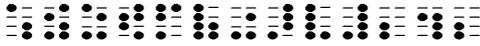
照りかがやく太陽は、山かげに沈んでゆき、黄河の水ははるかな海に注いでゆく。この雄大な風景を、よくながめ尽くしたいと、さらにもう一階、楼を上へのぼった。

（王の渙は盛唐の人、柳宗元は中唐の人。日榮社『要説 漢詩』による。）

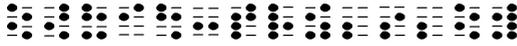
千山鳥飛ブコト絶エ



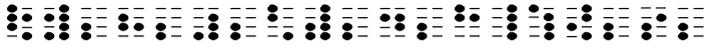
万径人蹤滅ス



孤舟蓑笠ノ翁



独リ 釣ル寒江ノ



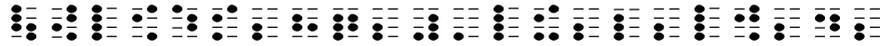
雪ニ



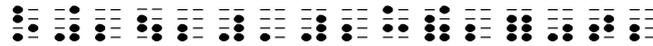
白日依リテ 山ニ尽キ



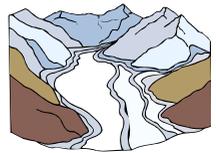
黄河入リテ 海ニ流ル



欲シ 窮メント



千里ノ 目ヲ



更ニ上ルー層ノ楼



(中略)

なお、東洋医学、現代医学の各立場から、病証あるいは鍼灸治療の対象となる疾患について病態、症状・所見、治療方針、処方例などを記したが、これは鍼灸治療の考え方・方法を例示することにより、診察・治療の過程が容易に理解できると考えたからである。本書は鍼灸治療の一例を示したのであり、初学者が多様な鍼灸治療を固定的にとらえないよう、教育担当者のご配慮をいただきたい。

一九九三年二月

(後略)

教科書執筆小委員会

二 以下の書籍を漢点字訳しております。

- ① 丸谷才一著、「新々百人一首」、藤田康幸編、「医療事故対処マニュアル」が、近々完成を迎えます。前者は今年度、横浜市中央図書館へ納入します。

- ② 朝日歌壇・俳壇も、引き続き希望者に、月刊でお届けしております。

- ③ 健康記事、朝日新聞



「三六・五」

「ともに歩む」、読売新聞「医療ルネサンス」も、引き続き月刊でお届けしております。

- ④ 「医療ルネサンス」で、月刊でお届けできないものも、ご希望を募って、不定期にお届け致します。

- ⑤ 電子図書館「青空文庫」の蔵書の漢点字への変換も進んでおります。現在は、夏目漱石の作品に取り組んでおります。

三 ホームページを立ち上げました。

本会でも、兼ねてからの懸案であったホームページを立ち上げました。

とは申しましても、今のところ器だけができた状態です。中身は整っておりません。今後、本会の活動や漢点字の紹介を主眼に置いて、検討を重ねて行きます。ご覧いただいて、ご意見をお寄せいただきたいと存じます。

また、ホームページの運営等について、読者の皆さまの貴重なご経験をお聞かせいただければ幸いです。

URL: <http://users.goo.ne.jp/ukanokai/>

四 「羽化の会メール・ニュース」の配信を始めました。

本会の活動をリアル・タイムにご紹介することと、皆さまとの意見の交換を目的として、メール・リストを利用した、メール・ニュースの配信を

始めました。

視覚障害者と本协会会员、漢点字訳・音訳ボランティアを中心に、関心をお寄せいただいている方々に、メンバーになっていただいております。

動いている活動をご覧いただくことと、読者の生のニーズに触れていただくことから、よりよい信頼関係の構築に結び付けられればと考えております。

このリストに入会をご希望の方は、以下のアドレスにご一報下さい。

E-MAIL・ takeshi-okada@h2.dion.ne.jp

五 横浜市社会福祉協議会へ、要望を出しました。

これまで公的な機関で、視覚障害者に対する漢字教育がなされて来なかったことを反省して、社会の責任としてこれに取り組んで欲しい旨の、要望書を提出しました。同文は、本誌に収録しました。

この十二月七日の、ボランティア・センター運営委員会でごついでいただくことができました。

この委員会の席では、漢点字をご存知であった委員は皆無でした。そのためか、この趣旨を充分ご理解いただけただか、残念ながら確信は持てませんでした。その中で、特に反対意見は出されませんでした。積極的に推していただくことも叶いませんでした。

今後もう少しづつ理解を求めて、一般の視覚障害者へ向けて、漢字の知識の必要性を、市社協のお力をお借りしながら、訴えて行けるよう努力して行く所存でございます。

六 小学校へ、お話に参りました。

去る十一月八日（木）、横浜市港南区の、港南台第一小学校の四年生三クラスに、岡田が、お話しさせていただきました。

同年年の国語の教科書に、「手と心で読む」という、点字を紹介した記事がある。児童から、直接視覚障害者の話が聞きたいとの声が上がったとのことでした。市社協を通してご依頼があつて、お引き受けしました。今後このような機会には、お応えすべく努力して参ります。



以下は、横浜市社会福祉協議会へ向けて、十一月十六日付けで提出した、要望書です。

横浜市社会福祉協議会

ボランティア・センター

水野 伍平 統括部長 様

下嶋 悦子 課長 様

二〇〇一年十一月十六日

横浜漢点字羽化の会

代表 岡田 健嗣

視覚障害者の識字についての要望

私は点字使用の視覚障害者です。

今年、公募されましたボランティア・センター運営委員に応募して、非力者ではございますが、委員、および市社協の職員の皆さまのお陰で、何とか務めさせていただいております。

ここに提出いたしますのは、視覚障害者の識字に関して、二つのお願いを文書に作製したものでございます。

これは、去る十月二十三日(火)に、担当の職員の方にお電話でお話しして、文書にまとめるようお勧めいただいたものです。

概要

周知の通り、日本では、先天盲あるいは学齢前に失明した視覚障害者は、漢字の知識を習得する機会を得ておりませ

ん。従って、日本語の漢字仮名交じりによる表記法も学習できずに参りました。

私もその一人で、盲学校に在学している間は殆ど不都合を感じることはありませんでしたが、社会に出てから、大変な苦勞をしました。恐らく私と同様の困難で、現在も悩んでいる人が、沢山おられるものと想像されます。

私は、一九七九年に、元大阪府立盲学校教諭、故川上泰一先生の創案された『漢点字』を学習することで、初めて漢字の世界を知ることができました。そのことで初めて日本語の表現の豊かさを痛感させられたのです。この『漢点字』のあらしや、習得者の声等は、他の資料に譲ります。

漢字を知らぬまま社会へ出る辛さは、当事者でないと分からないようで、その後様々な視覚障害者関係の施設に赴いた際、このことを訴えましたが、全く取り上げられませんでした。

例えば、神奈川県ライトセンターは、発足当初から利用者としてお世話になつて参りましたが、一度として、このことに耳を傾けて下さることはございませんでしたし、この市社協のボランティア・センターでも、開始当初からこのお話をし参りましたが、主体的にコミットしていただくまでには至っておりません。

そこでやむなく、自らの力で漢点字を学びたい希望を持つ視覚障害者を募集して、漢点字の資料を作製し提供するこをボランティア活動として起こすことになりました。

それが現在行っております漢点字羽化の会の活動でございます。

私どもが行っております活動は、いわば識字の運動であると認識しております。しかも「識字」は、世界の歴史を見ても、学校教育制度の元でないで達成できないものであることが証明されております。すなわち、私どもの現在の活動を続けて、視覚障害者に独力で漢字の世界を知ってもらおうということができても、残念ながらごく限られた一部の人だけに許された特権となってしまうのです。それだけ文字を独学するということは、困難な事業なのです。

しかし我が国の制度は、皆に等しく開かれているのが立て前となっておりません。その立て前を、文字どおりのものにするには、本来でしたら、盲学校等の教育機関に手がけていただくべきものと考えられますが、教育機関には残念ながら全くそのお考えはないようです。盲学校にお訪ねして、このようなお話を致しましても、お答えはいただけませんし、反対のご意見もいただくことができないのが現状です。

これまで申し上げて参りましたように、識字は、学校教育、とりわけ初等教育の場合が最も大事なところで、社会に出てから、独力で習得せよという現在の在り方は、極めて過酷な状況と言わざるを得ません。

そこで以下のお願いを申し上げたいと考えます。

要 望

以上のように、現状では学校教育の現場で、視覚障害者への漢字教育を行おうという発想はないようです。

盲学校の先生方の中には、点線文字や浮き出し文字で漢字を教えているとおっしゃる方もおられますが、視覚障害者にとつての文字は、指先で触読できる文字でなければなりません。残念ながら点線や浮き出しの形を文字として読み取ることが、極めて困難です。文字の形を知るためには有効ですが、文章を読むことはできません。そのことは、点字の父であるルイ・ブライユが証明しているところで、我が国に置き換えれば、漢字の点字である『漢点字』の教育が必要であることを意味しているに他なりません。

そこで、社会的なお仕事として、市社会福祉協議会的主导で、以下の事業をご検討いただきたくお願い申し上げます。

一・市内在住・在勤の視覚障害者を対象に、漢点字の指導を継続的に行う。

二・漢点字訳のボランティアを募集し、強く支援する。

この二点についての具体的な施策は、時間をかけて練り上げる必要がありますし、その間に、職員の皆さまやその他、センターに関わっておられます皆さまにも、充分にご理解を賜らなければなりません。

本会と致しましても、ボランティア活動として、できる限りお手伝いさせていただきたく所存でございます。

以上、ご検討のほどよろしくお願い申し上げます。



イラスト版



漢点字ってどんな字？ 28

第二基本文字 その4

1. 第一基本文字と関連した漢点字

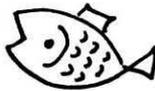
第一基本文字 第二基本文字

⠠	〈⠠宿〉	⠠⠠	写	(宀、かんむり)						
⠠	〈⠠学〉	⠠⠠	愛	⠠⠠	光	⠠⠠	文	(かんむり)		
サ	⠠	⠠	都	⠠⠠	陸	(邑阜)				
シ	⠠	⠠	市	⠠⠠	巾	(巾偏)				
ス	⠠	⠠	発	⠠⠠	冬	⠠⠠	罪	⠠⠠	虎	(夂、网、虍、かしら)
ソ	⠠	⠠	馬	⠠⠠	牛	⠠⠠	羊	⠠⠠	豚	(牛羊豕、動物)
チ	⠠	⠠	竹	⠠⠠	雨	(竹雨、かんむり)				
ツ	⠠	⠠	土	⠠⠠	土	(土土)				
ト	⠠	⠠	戸	⠠⠠	居	⠠⠠	老	(戸屍老、かんむり)		
ネ	⠠	⠠	示	⠠⠠	衣	(示衣)				
ノ	⠠	⠠	私	⠠⠠	米	(禾米)				
ハ	⠠	⠠	走	⠠⠠	延	⠠⠠	支	⠠⠠	遊	(走、支、進、にょう)
ヘ	⠠	⠠	玉	⠠⠠	王	⠠⠠	主	(玉王主)		
ミ	⠠	⠠	耳	⠠⠠	身	⠠⠠	足	(耳身足)		
メ	⠠	⠠	目	⠠⠠	自	(目自)				
モ	⠠	⠠	門	⠠⠠	气	⠠⠠	包	⠠⠠	区	(門、气、勹、区、かまえ)
ヨ	⠠	⠠	店	⠠⠠	原	(广、たれ)				
リ	⠠	⠠	分	⠠⠠	今	(八、人、かしら)				
⠠	〈⠠日〉	⠠⠠	白	(日白)						
⠠	〈⠠困〉	⠠⠠	我	⠠⠠	式	⠠⠠	用	(口、戈、かまえ)		

2. 第一基本文字との関連の薄い漢点字

第一基本 第二基本文字

オ・ < 頁 > 君
 カ・ < 金 > 川
 コ・ < 子 > エ
 シ・ < 市 > 色
 セ・ < 食 > 鳥 魚 酉
 タ・ < 田 > 谷
 フ・ < 女 > 舟
 ヘ・ < 玉 > 将



第一基本 第二基本文字

ホ・ < 方 > 夕 死
 マ・ < 石 > 立
 ム・ < 車 > 虫 羽
 ヤ・ < 病 > 山 矢
 ユ・ < 行 > 弓
 心・ < 心 > 桜 菊
 ン・ < 止 > 欠

前の復習				二つの構え			
が り		レ 下		モ			
用	式	我	第一基本文字は 困	区	包	気	第一基本文字は 門
〔レ下がり・③〕	〔レ下がり・②〕	〔レ下がり・①〕	〔くにがまえ〕	〔はこがまえ〕	〔モ・③〕	〔つつみがまえ〕	〔モ・②〕
〔けいがまえ〕	〔しきがまえ〕	〔ほこがまえ〕				〔きがまえ〕	〔モ・①〕
内	代	戦	困	匠	匂	汽	問
部首の例 ←							

志朗くん 第二基本文字の四回目だ。
 おねえさん いつもものように復習からね。
 未来ちゃん 前は、構えの大きなグループが
 二つあったのよね。それから復習
 しましよう。



前回の復習

リ	ヨ	が り	メ	ミ
今	原	白	自	身
第一基本文字は 分 (八頭・人頭)	第一基本文字は 店 (まだれ・がんだれ)	第一基本文字は 日 (上に点の付く文字)	第一基本文字は 目 (上に点の付く文字)	第一基本文字は 耳 (身体に関係する文字)

お 今日から第二基本文字の二つ目、
 第一基本文字と関連の薄いものね。
 志 これも基本文字だから、他の文字
 を作る時の部首になるんだね。
 未 一マス目が漢点字符号、二マス目
 に①②③の点のどれかがつくのも、
 これまでの第二基本文字と同じね。

才
 頁
 君

志 オの第一基本文字は頁だけど、
 第二基本文字は君なんだ。
 未 どんな字があるかしら？

郡
 群
 群

力
 金
 川

未 川(かわ)ね。
 志 よく出てくる字だね。
 未 災の上の部分は、川の流れが
 ふさがれた形だから
 水や火の災害かしら。

川



災
 サイ
 わざわい

順
 ジュン
 (したがう)



コ
子
工

未 志 未
 工作の工。
 工業の工。
 『たくみ』という訓があるのね。

物を作る時、
 穴をあけたり
 する形だよ。



未
 さんずい(江)と工で江。大陸をつらぬく、大きな川のことね。

志
 工と力(功)で功。おてがらの意なんだ。力をこめて上手に穴をあけることを表す文字。

江
 コウ
 え

功
 コウ・ク
 (いさお)

シ
 市
 色

未
 色(いろ)ね。

志
 漢点字では(シ)で始まる字のうち六つを色の字に充てたんだ。

未
 やっぱり基本文字と考えているのね。右側の符号が部首になるのね。



シ
 で、は、い、ま、る

6つの色とは?



未

 シカ
 赤



未
 赤い火から来ているのね。もとの形は、大の下に火よ。

赦

 シヤ
 (ゆるす)

嚇

 カク
 (おどす)

志

 シク
 黒



志
 火を燃やして、煙突についでいる煤(すす)を表しているんだって。

墨

 ボク
 すみ



未

 シコ
 黄



未
 火矢の火がもえている形、黄色い炎のいろね。

横

 オウ・コウ
 よこ



志

 シセ
 青



志
 瑞々しい若い草の生えている形。青の上の部分は生と同じなんだって。

清

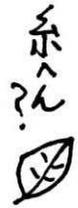
 セイ・シヨウ
 きよい

晴

 セイ
 はれる

志

 シミ
 緑



志
 漢字では糸偏の形声文字だけど。川上先生、糸偏にしないで色にまとめたかったんだね。

未

 シム
 紫



志
 紫にも、下に糸があるわ。緑と同じに考えて、色の仲間に入れたんだね。

セ 食

鳥

魚

酉

未 鳥は、頭と尾のある形ね。



志 魚は、頭と尻尾のあるさかなの形だ。



未 どちらも、形が残ったのね。

志 酉は、干支えとのトリだ。

未 本当はお酒の入った壺の形なのよ。



志 だから飲むことや飲み物の字に入っているんだ。



未 酉は干支のトリだから、方角や時刻にも用いられたのね。

鳩

鴨

漁

鮮

鯖

鮭

酒

酔

魚 と青

鯖 さば

漢字の字が

漢字が

活きてるよ



今日の近似文字

酉

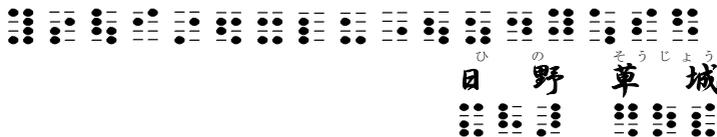
第二基本文字

酉

近似文字

作・岡田 絵・吉田

火の色やけふにはじまる十二月

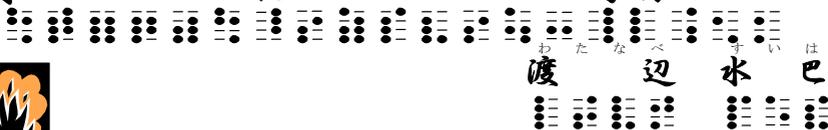


ひの 野 草 城
ひの ぞうじょう



お 岡 か も と 本 峠
お かつか も と ほん とみ

薄めても花の匂ひの葛湯かな



わ た な べ す い は
わたなべすい



(「歳時記」より)

編集後記

ノーベル賞のニュースが流れています。早速、インターネットで検索(便利な時代です)、ノーベル賞って、どんな賞があるのかしら、今年の授賞式の様子は?等等。

検索の結果、過去の受賞者の一覧と日本人受賞者の一覧をみました。一九四九年から二〇〇一年までに日本人では十名の受賞者の名が、物理学賞(三名)・化学賞(三名)・医学生理学賞(一名)・文学賞(二名)・平和賞(二名)の方が受賞。「経済学賞?こんな賞もあるのね!」(残念ながら受賞者なし)

理数と呼ばれる分野には十人中七人も、数字を見ると頭が痛くなる私にとっては、すごい一言。

最近、テレビに出演していた大江健三郎氏の名も息子さんである、ひかるさんのお話しをされたときの優しい顔が印象的でした。

障害をもった方の中には、優れた感性、才能を発揮する方が多いと、お話をされた方の言葉を思い出しました。

本号に連載されています「点字の読みづらさと漢点字の触読について」の中の「私たち日本人がこうして読み書きしている文章は、香り高いものも、……点字の世界は仮名だけで十分と……」、本文の最後の言葉が、あらためて心に残ります。

次回の発行は二月十五日です。 宇田川 幸子

※本誌(活字版・テープ版・ディスク版)の無断転載はかたくお断りします。 表紙絵 岡 稲子

5. アルファベットの入力

アルファベットも、原則として全角で入力して下さい。

- ①日本語の文章のなかで、アルファベットが記号や略称として用いられる場合、そのまま入力して下さい。

USA WHO 3 LDKタイプ

【注】Q&`AやP&`Gのような場合は、「&」と後ろのアルファベットとの間に、必ず「`」（212E）を入れて下さい。
(アクサングラブの項、後日掲載、参照)

- ②日本語の文中のアルファベットが単語や文章の場合、“ ” (2148 2149) で括って下さい。この括弧は、外国語引用符としてのみ用いられます。

“Yokohama” “Windows”
“Time is money.”

【注】日本語を“ ”で括りたい場合は、“ ” (2D60 2D61) で括って下さい。

- ③アポストロフィは、半角の「'」を使って下さい。
(半角入力の項、後日掲載、参照)

8 o'clock ⇨ “8 o'clock”
it's ⇨ “it's”

- ④英文などをセンテンスで引用したい場合、引用の行頭に半角の「¥e」を入れ、最終行の行末（改行マークの直前）にも、「¥e」を入れて下さい。

¥e Yesterday all my troubles seemed so far away
Now it looks as though they@'
re here to stay¥e

【注】「¥e」は、変換されるとスペースになりますので、行頭の「¥e」の後ろのスペースは一つにして下さい。

- ⑤ J I Sコードには、cm、kg、ccなどのアルファベットの単位記号がいくつかありますが（単位記号の項、次号掲載、参照）、これらの記号は1文字ずつ全角のアルファベットで入力して下さい。（これらの記号はそのまま入力してもかまいません。また全角のアルファベットと組み合わせて使うこともできます。）

cm / sec	cm / sec	どちらも	⠠⠨⠠⠎⠠⠎	⠠⠨⠠⠎⠠⠎
mmHg	mmHg	どちらも	⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠

- ⑥アルファベットのつなぎ符も数字と同様、「ハイフン」を用います。

CD-ROM	⠠⠠⠠⠠⠠⠠
--------	--------

- ⑦「α、β」などのギリシア文字も、そのまま入力して下さい。

α	⠠⠠⠠	β	⠠⠠⠠	γ線	⠠⠠⠠	⠠⠠⠠
---	-----	---	-----	----	-----	-----

6. 括弧（囲み符号）

- ① a) キーボードから入力できる括弧

()	小括弧（まる括弧）	⠠⠠	⠠⠠
{ }	中括弧	⠠⠠⠠	⠠⠠⠠
[]	大括弧（かく括弧）	⠠⠠⠠	⠠⠠⠠

- b) 記号選択あるいは辞書登録して入力する括弧

『 』	(2158 2159)	二重かぎ括弧	⠠⠠⠠	⠠⠠⠠
< >	(2152 2153)	山括弧	⠠⠠⠠	⠠⠠⠠
《 》	(2154 2155)	二重山括弧	⠠⠠⠠	⠠⠠⠠
【 】	(215A 215B)	墨付き括弧	⠠⠠⠠	⠠⠠⠠
[]	(214C 214D)	亀甲括弧	⠠⠠⠠	⠠⠠⠠
“ ”	(2D60 2D61)	ひげ括弧	⠠⠠⠠	⠠⠠⠠
“ ”	(2148 2149)	ダブルコーテーション	⠠⠠	⠠⠠
‘ ’	(2146 2147)	シングルコーテーション	⠠⠠	⠠⠠
˙ ˘	(212F 212D)	(傍点・傍線対応)	⠠⠠	⠠⠠

- ②日本語文の中では、“ ”と‘ ’は、外国語引用符として用いられます。日本語文にこれらが用いられている場合は、“ ”に替えて下さい。

- ③ “ ” は括弧の類ではありませんが、類似の使い方をします。
傍点や傍線で強調されるところを括弧で示します。
人でなしの国 ⇨ “人でなし”の国
- ④ (財) (株) (有) などの後ろは、一つスペースを入れて下さい。
(財) 日本漢字能力検定協会
- ⑤ 文学書に多いのですが、「……。」の後に (……) の文が陰の声のようにある場合、閉じ括弧の後にスペースを一つ入れて下さい。
……情熱は死よりも強いものなのであろう。(もちろん死に対する情熱は例外である。) かつまた恋はそういうもののうちでも、……
(芥川龍之介『侏儒の言葉』)

7. 記号類

(1) 「. , : ;」と「? !」

- ① 外国文では、「. , : ;」の後ろに、必ずスペースを一つ入れて下さい。「? !」の後ろには、日本語文同様スペースは不要ですが、入れても大丈夫です。

“Good morning, Mr. Suzuki.”
“J. F. Kennedy”

【注】U. S. A. のようなアルファベットの略語は、省略符「.」と後ろのアルファベットの省略の間は、スペースを入れずに続けます。(外国語引用符で括弧の場合は、アクセントの項、参照)

【注】「.」が以下のように日本語文中に混じる場合も、「.」の後ろにスペースが必要です。「.」は省略することもあります。

J. F. ケネディ
a. と b. の場合

(参考) 「.」がない場合、または省略した場合。

J F ケネディ a と b の場合

- ② 「. , : ;」は数字とともに、用いられます。
(数字の入力の項、既出、参照)
- ③ 「.」は、表題番号の後の区切りに用いられます。その後ろには必ずスペースを一つ入れて下さい。(レイアウトの項、後日掲載、参照)
1. 概要 a. 春の草花

- ④ 「:」は、日本語文中で小見出し符として用いられます。
 その場合は、「_」(2132)に読み替えて入力し、「_」の後ろ
 に は必ずスペースを一つ入れて下さい。
 (小見出し符は、行替えしない小さな見出しに使います。)

住所_ 〒221-0000 横浜市神奈川区……
 (その他の記号、次回掲載、参照)

点字に変換 「,」 と 「.」

墨字では、ピリオドと小数点、カンマと位取り点は同じ記号
 号を使いますが、点字では異なる記号です。それに対応して
 EIBRK では後ろに数字が来る場合、「.」 「,」を以下のように
 点字変換します。

「,」 カンマ「⠆」 直後に数字がくる場合は位取り点「⠇」
 12, 000 12⠇000
 「.」 ピリオド「⠂」 直後に数字がくる場合は小数点「⠂」
 3. 14 3⠂14

【注】 p. 15のような場合も、「.」は小数点「⠂」に変換さ
 れます。「.」の後ろに「`」を入れて小数点に点字変換
 されることを防いで下さい。(アカングループの項参照)

p. `15 p⠂⠂15
 B. C. `100 B⠂⠂C⠂⠂100

(「p15」や「BC100」は、そのまま入力できます。)

後ろにスペースを入れると、「.」は常にピリオド「⠂」
 に、「,」は常にカンマ「⠆」に点字変換されます。

1. 2. 3. の答え
 1⠂ 2⠂ 3⠂ の答え

(記号類の項、次号へ続く)